壁スイッチ
WS50x
ユーザーガイド

目次

第1章　はじめに 4

第2章 製品紹介 6

概要 6

特長 6

第3章 ハードウェアのはじめに 7

同梱品一覧 7

ハードウェアの概要 7

LEDの点灯パターン 8

外形寸法 8

配線図 9

第4章 設置 10

第5章 クイックスタート 11

NFC 経由でセンサーにアクセスする 11

ネットワーク設定を行う 11

第6章 操作ガイド 13

LoRaWAN® Settings 13

Multicast Setting 15

General Settings 17

Milesight D2D Setting 18

Milesight D2D Controller 18

Milesight D2D Agent 20

デュアルコントロールスイッチの例 21

Maintenance 22

Upgrade 22

Backup and Restore 23

Reset to Factory Default 25

第7章　アップリンクとダウンリンク 27

概要 27
アップリンクデータ 27
基本情報 27
定期報告書 28
スイッチ変更報告書 28
ダウンリンクコマンド 29
スイッチのオン／オフ 29
一般設定 30
タスク設定 31
第8章 サービス 33

第1章　はじめに

適用対象

本ガイドは、以下のモデルに適用されます：

Model	Description
WS501 (PN: 3W-W12-US)	ニュートラル線が必要なバージョンです。
WS501 (PN: 3W-W11-EU)	
WS502 (PN: 3W-W11-EU)	

著作権に関する声明

本ガイドは、Xiamen Milesight IoT Co., Ltd（以下、「Milesight」といいます）の事前の書面による許可なく、いかなる形式または手段によっても、翻訳、改変、翻案などの派生作品を作成するために複製することはできません。

本ドキュメントの日本語版は、Milesight社の許諾のもと、ウェーブクレスト株式会社により翻訳されたものです。本書の記載内容と英語版の原本との間に相違や齟齬がある場合は、英語版の内容が優先されるものとします。

Milesight 当社は、事前の通知なしに本ガイドおよび仕様を変更する権利を留保いたします。すべてのMilesight製品の最新の仕様およびユーザーマニュアルは、当社の公式ウェブサイト www.milesight.com でご覧いただけます。

安全上の注意事項

本操作ガイドは、ユーザーが製品を正しく使用し、危険や財産の損失を回避することを目的としています。Milesightは、本操作ガイドの指示に従わなかったことに起因するいかなる損失や損害についても、一切の責任を負いません。

警告：

これらの警告のいずれかを無視した場合、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 設置および保守は、資格を有するサービス担当者が実施し、現地の電気安全規制を厳守する必要があります。
- 設置中は、ブレーカーの電源が切れていることを確認してください。
- 火災や感電の危険を防ぐため、設置前は本製品を雨や湿気から遠ざけてください。

注意：

これらの注意事項を怠ると、怪我や機器の損傷を引き起こす恐れがあります。

- 設置の際は、スイッチボックス内に物を残さないでください。
- 本製品をいかなる方法でも改造しないでください。
- 本製品のセキュリティを保護するため、初回設定時にパスワードを変更してください。初期設定のパスワードは「123456」です。
- 本機の損傷を防ぐため、最大容量を超えないようにしてください。
- 本製品は屋内専用です。動作範囲を下回る、または上回る場所には設置しないでください。
- 本機器を、裸火、熱源（オーブンや直射日光など）、冷源、液体、および急激な温度変化を伴う物の近くに置かないでください。
- 本機器は、清潔な環境でのみご使用ください。ほこりや汚れの多い環境では、本機器が正常に動作しない場合があります。
- 本機器に物理的な衝撃や強い振動を与えないでください。

改訂履歴

リリース日	バージョン	説明
2022年6月24日	V 1.0	初期バージョン
2022年10月26日	V 1.1	2線式モデルを追加しました
2025年1月22日	V 1.2	1. 2線式バージョンのモデルを削除しました 2. ToolBoxのスクリーンショットを更新しました。
2025年4月23日	V 1.3	Milesight D2D コントローラの機能とデュアル制御のサンプルを追加しました。

第2章 製品紹介

概要

WS50xは、照明や電気機器のローカルおよびリモート制御を行うためのスマートLoRaWAN®壁スイッチです。世界のほとんどの壁スイッチタイプに対応する2つの標準サイズを採用しており、従来の壁スイッチと直接置き換えることができます。Milesight LoRaWAN®ゲートウェイおよびMilesight IoTクラウドソリューションに対応しており、WS50xはウェブページやモバイルアプリを介してリモートで監視・制御できるほか、他のMilesightセンサーによって動作をトリガーすることも可能です。

WS50xは、家庭、オフィス、ホテル、博物館などの屋内用途で幅広くご利用いただけます。

特長

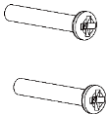
- 高信頼性のリレーによるローカルまたはリモート制御に対応
- 電流、電圧、電力、消費電力の計測が可能で、過負荷対応機能も備えています
- スイッチインジケーターを内蔵しており、暗い環境でも使いやすい
- 見通し距離最大15 kmの超長距離無線伝送に対応
- ワンタッチ設定が可能なNFCを搭載し、カードエミュレーションモードにも対応しています
- 標準的なLoRaWAN®ゲートウェイおよびネットワークサーバーとスムーズに連携します
- Milesight IoT CloudおよびMilesight Development Platformに対応しています
- Milesight D2Dプロトコルに対応しており、ゲートウェイを介さずに超低遅延制御が可能です
- スイッチを一括で制御するためのマルチキャスト機能を対応しています

第3章 ハードウェアのはじめに

梱包内容



WS50x 壁面スイッチ × 1



取り付け用ネジ × 2



1 × クイックガイド



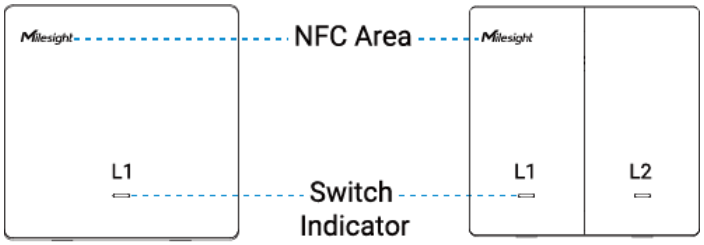
1 × 保証書

注：

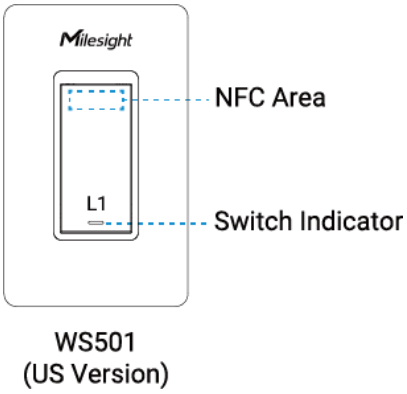
上記の品目が欠品または破損している場合は、担当の営業担当者までご連絡ください。

ハードウェアの概要

86タイプ



120タイプ

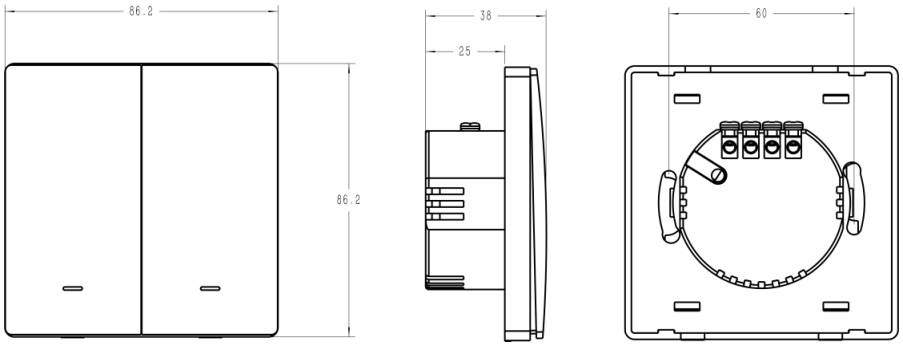


LED パターン

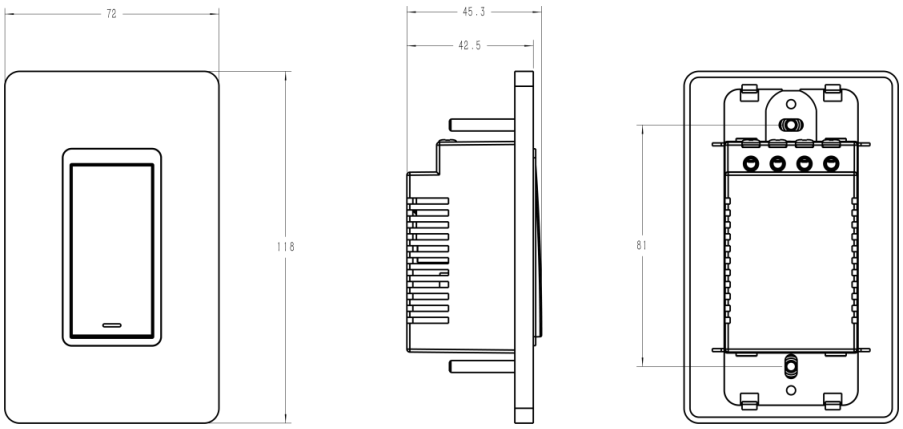
Function	Action	Indicator
Power On	デバイスへの電源供給	オフ → オン
Network Status	ネットワークへの参加リクエストパケットを送信します	素早く1回点滅します
	ネットワークへの参加に成功しました	すべてがゆっくりと2回点滅します
Reset to Factory Default	いずれかのボタンを10秒以上長押ししてください	点滅します

外形寸法

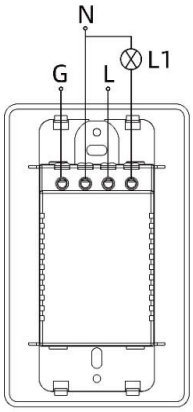
86 タイプ



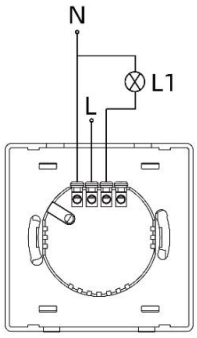
120 タイプ



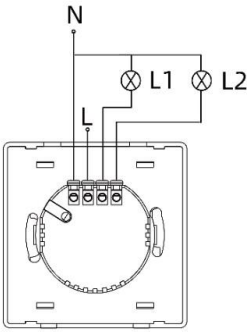
配線図



WS501
(3W-W12-US)



WS501
(3W-W11-EU)



WS502
(3W-W11-EU)

第4章 設置

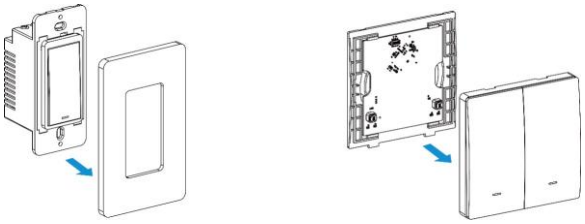
設置場所

最適なデータ伝送を実現するため、本デバイスが LoRaWAN® ゲートウェイの信号範囲内にあることを確認し、金属物や障害物から離して設置してください。

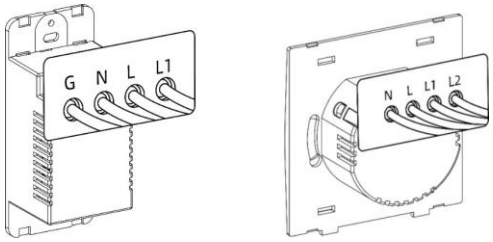
設置手順

1. 回路の電源が切れていること、および古いスイッチが取り外されていることを確認してください。

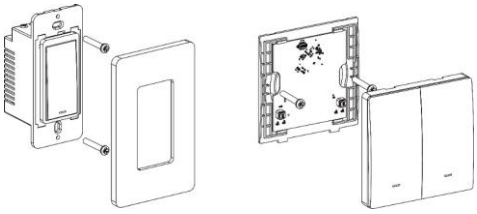
2. WS50xスイッチの前面パネルを開けてください。



3. 対応する配線を WS50x スイッチに接続してください。



4. 取り付けネジを使用して、WS50xスイッチをスイッチボックスに固定し、その後、フロントパネルを本体に取り付けてください。



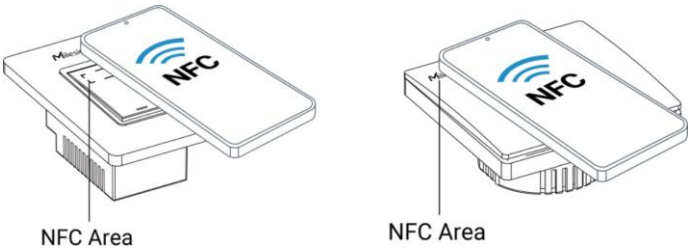
第5章 クイックスタート

NFC 経由でセンサーにアクセスする

1. NFC 対応のスマートフォンで、Google Play または Apple Store から「Milesight ToolBox」アプリをダウンロードしてインストールしてください。
2. スマートフォンでNFC機能を有効にしてください。
3. Milesight ToolBoxを起動し、デフォルトモードとしてNFCを選択してください。
4. スマートフォンのNFC対応エリアをデバイスに近づけ、「」をタップしてデバイス情報を読み取ります。正常に認識されると、デバイスの基本情報、データ、設定が「Milesight ToolBox」アプリに表示されます。
5. アプリの設定を調整した後、スマートフォンのNFC対応エリアをデバイスに近づけて、**「Write」**をタップし、設定を書き込んでください。書き込みが完了したら、デバイスを再度読み取り、設定が正しく書き込まれているか確認してください。

注：

- スマートフォンのNFCエリアの位置を確認してください。また、スマホケースを外すことをお勧めします。
- スマートフォンがNFC経由で設定の読み取り・書き込みにフェイルした場合は、スマートフォンを少し離してから再度お試しください。



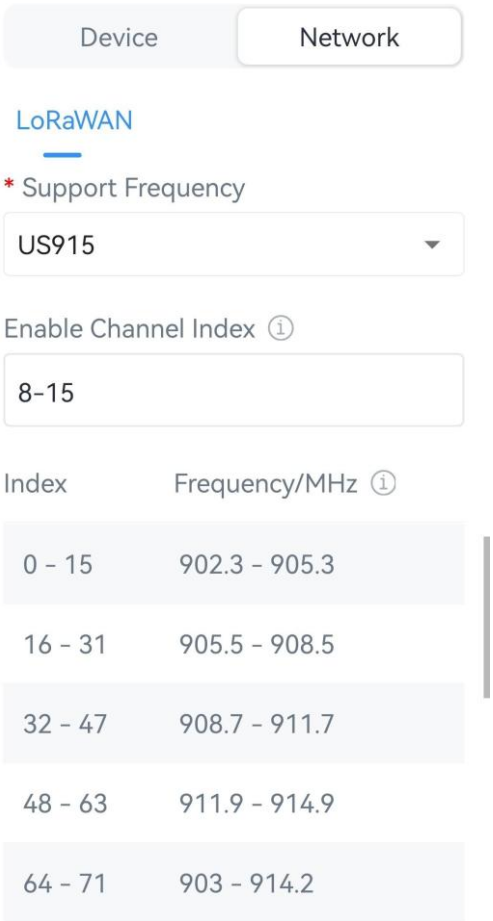
ネットワーク設定の構成

1. **Network**設定ページに移動し、必要に応じて接続タイプとして「OTAA」または「ABP」を選択してください。

注：
デバイスをMilesight IoT CloudまたはMilesight Development Platformに接続する場合は、OTAAモードが必要です。

2. LoRaWAN® ゲートウェイと同じ、対応している周波数を選択してください。

注：
Milesightゲートウェイのデフォルト設定を使用する場合は、US915またはAU915の場合、チャネルインデックスを8～15に設定してください。



3. その他の設定はデフォルトのままにし、「**Write**」をクリックして設定を保存してください。

第6章 操作ガイド

LoRaWAN® Settings

この章では、デバイスの LoRaWAN® ネットワーク設定について説明します。

Parameter	Description
Device EUI	デバイスに表示されている、そのデバイス固有のIDです。 **注：** 多数のユニットをお持ちの場合は、デバイスのEUIリストについて営業担当までお問い合わせください。
App EUI	デフォルトのアプリEUI（参加用EUI）は 24E124C0002A0001 です。
Application Port	データの送受信に使用されるポートです。デフォルトのポートは 85 です。
LoRaWAN® Version	V1.0.2 および V1.0.3 が利用可能です。
Work Mode	Class Cに固定されています。
Confirmed Mode	デバイスがネットワークサーバーからACKパケットを受信しなかった場合、データを1回再送信します。
Join Type	OTAA および ABP モードが利用可能です。 **注：** デバイスをMilesight IoT CloudまたはMilesight Development Platformに接続する場合は、OTAAモードを選択する必要があります。
Application Key	OTAAモード用のアプリキー。デフォルト値：「Device EUI」＋「Device EUI」（2025年第4四半期以降）。例：24e124123456789024e1241234567890 **注：** • 旧モデルのデフォルト値は 5572404C696E6B4C6F52613230313823 です。 • ランダムなApp Keyが必要な場合は、ご購入前に営業担当までお問い合わせください。

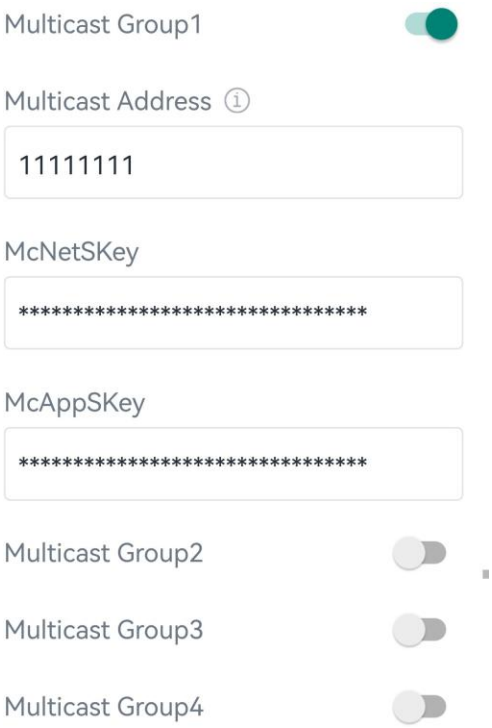
Parameter	Description
Network Session Key	ABP モードの Nwkskey。デフォルトは 5572404C696E6B4C6F52613230313823 です。
Application Session Key	ABP モードの Appskey です。デフォルトは 5572404C696E6B4C6F52613230313823 です。
Device Address	ABP モードの DevAddr です。デフォルトは、SN の 5 桁目から 12 桁目までです。
Rejoin Mode	報告間隔が 35 分以下の場合：デバイスは、接続を確認するために、報告間隔ごと、または 2 回の報告間隔ごとに、所定の数の LinkCheckReq MAC パケットをネットワークサーバーに送信します。応答がない場合、デバイスはネットワークに再参加します。 報告間隔が 35 分を超える場合：デバイスは、接続を確認するために、報告間隔ごと、または 2 回の報告間隔ごとに、所定の数の LinkCheckReq MAC パケットをネットワークサーバーに送信します。応答がない場合、デバイスはネットワークに再参加します。 **注：** 1. 再接続モードに対応しているのは、OTAAモードのみです。 2. 実際の送信数は、**送信するパケット数に**1を加えた**値に設定します**。
Supported Frequency	アップリンクを送信する周波数を有効または無効にします。周波数が CN470/AU915/US915 のいずれかである場合は、有効にするチャンネルのインデックスを入力ボックスに入力し、カンマで区切ってください。 **例：** 1, 40：チャンネル1とチャンネル40を有効にする 1-40：チャンネル1からチャンネル40までを有効化 1-40, 60：チャンネル1からチャンネル40およびチャンネル60を有効にしますAll：すべてのチャンネルを有効にします Null：すべてのチャンネルが無効であることを示します

Parameter	Description
ADR Mode	ネットワークサーバーを有効または無効にして、拡散係数、帯域幅、送信電力を調整し、ネットワーク内のデータレート、エアタイム、およびエネルギー消費を最適化します。
Spreading Factor	ADR モードが無効になっている場合、デバイスはこの SF パラメータに従ってアップリンクデータを送信します。スプレッディングファクタが高いほど、伝送距離は長くなりますが、伝送速度は遅くなり、消費電力も増えます。
Tx Power	送信電力（Tx Power）とは、デバイスが送信する信号の強さを指します。これはLoRaアライアンスによって定義されています。
RX2 Data Rate	ダウンリンクを受信したり、D2Dメッセージを送信したりするためのRX2データレートです。
RX2 Frequency	ダウンリンクを受信したり、D2Dメッセージを送信したりするためのRX2周波数です。単位：Hz
Multicast Group	マルチキャストコマンドを受信するためのマルチキャストグループを有効または無効にします。

Multicast Setting

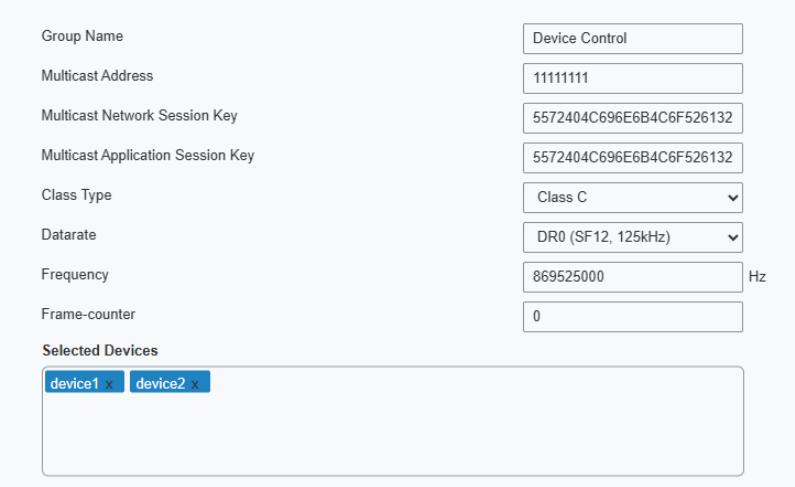
本デバイスは、ネットワークサーバーからのマルチキャストコマンドを受信するために複数のマルチキャストグループを設定する機能を対応しており、ユーザーはこの機能を利用してデバイスを一括で制御することができます。

1. **Multicast Group**を有効にし、他のグループと区別するために一意のマルチキャストアドレスとキーを設定してください。また、これらの設定をデフォルトのままにすることもできます。



Parameter	Description
Multicast Address	異なるマルチキャストグループを区別するための一意の 8 桁のアドレスです。
Multicast McNetSkey	32桁のキーです。デフォルト値：
Multicast McAppSkey	マルチキャストグループ 1：5572404C696E6B4C6F52613230313823 マルチキャストグループ 2：5572404C696E6B4C6F52613230313824 マルチキャストグループ 3: 5572404C696E6B4C6F52613230313825 マルチキャストグループ 4: 5572404C696E6B4C6F52613230313826

2. LoRaWAN® ネットワークサーバーにマルチキャストグループを追加します。Milesight ゲートウェイを例に挙げると、「**Network Server**」＞「**Multicast Groups**」に移動し、マルチキャストグループを追加して、デバイスの設定に従ってグループを設定します。

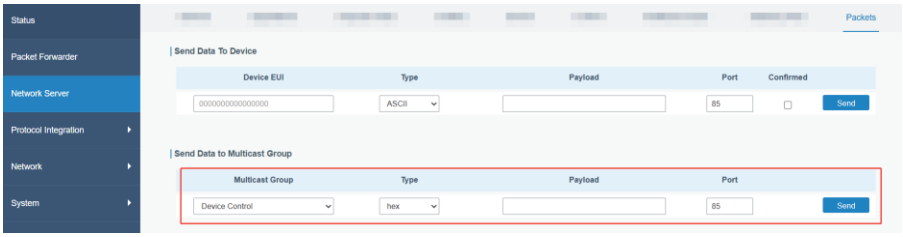


3. 「**Network Server**」＞「**Packets**」に移動し、マルチキャストグループを選択してダウンリンクコマンドを入力し、

[Send]をクリックします。ネットワークサーバーは、このマルチキャストグループに属するデバイスに対してコマンドをブロードキャストします。

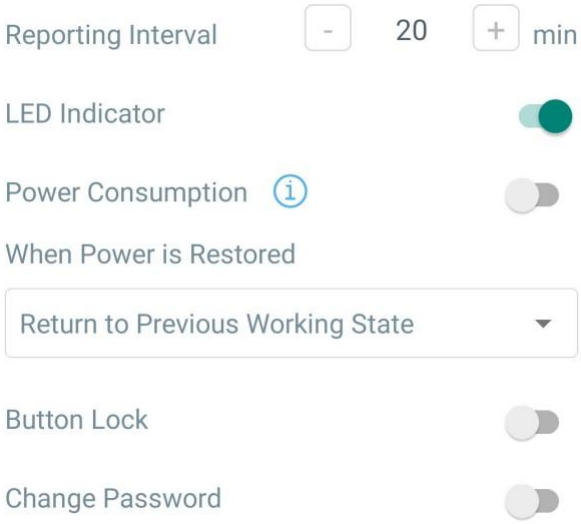
注：

すべてのデバイスのアプリケーションポートが同じであることを確認してください。



General Settings

一般設定には、デバイスの基本パラメータが含まれます。



Parameter	Description
Reporting Interval	電流センサーの値をネットワークサーバーに送信するレポート間隔です。デフォルト：20分、範囲：1～1080分。
LED Indicator	スイッチボタンのライトをオンまたはオフにします。デバイスをリセットするためにスイッチボタンを長押しした際の点滅には影響しません。
Power Consumption	消費電力を記録します。無効にした場合、デバイスは記録を停止し、消費電力の値の更新も停止します。
When Power is Restored	デバイスの電源が切れてから復旧した場合、このパラメータの設定に従ってデバイスの動作が変更されます。
Button Lock	有効にすると、すべてのスイッチボタンによる電源のオン／オフや工場出荷時のデフォルト設定へのリセットができなくなります。
Change Password	このデバイスに書き込みを行うための ToolBox アプリのパスワードを変更します。

Milesight D2D Setting

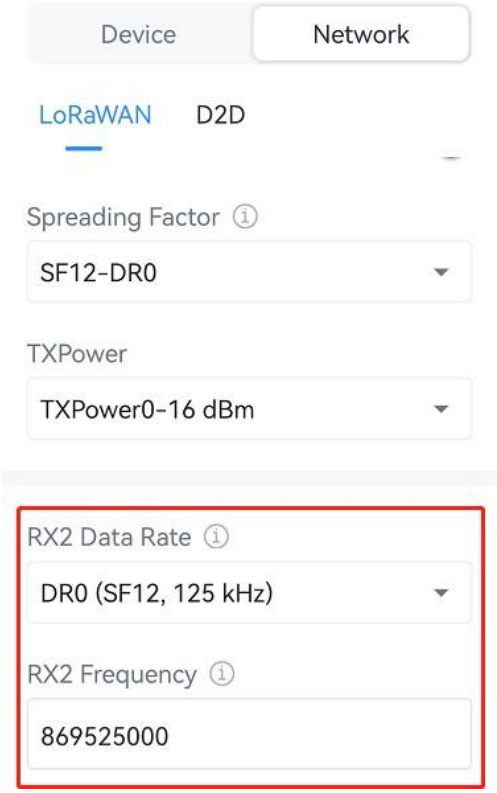
Milesight D2D プロトコルは Milesight によって開発され、ゲートウェイを介さずに Milesight デバイス間の通信を設定するために使用されます。これにより、遅延を低減し、迅速な制御を実現できます。

Milesight D2D Controller

D2D コントローラ設定を有効にすると、このデバイスは Milesight D2D コントローラとして機能し、D2D エージェントデバイスにコマンドを送信して動作させることができます。

1. RX2のデータレートとRX2の周波数を設定してください。

注：
他のデバイスとの干渉を避けるため、デフォルトのRX2周波数を変更することをお勧めします。
また、パフォーマンスを向上させるために、RX2データレートをSF7～SF10の範囲に設定してくだ



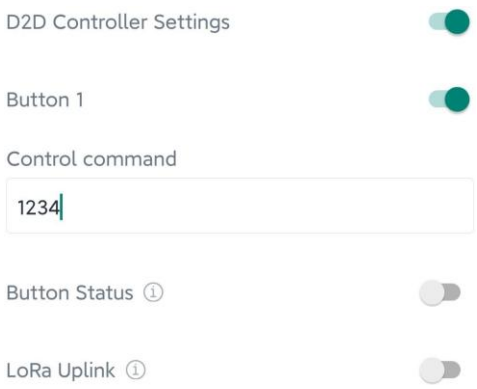
2. 「**D2D Controller Settings**」を有効にし、D2D エージェントデバイスと同じ一意の D2D キーを定義してください。（デフォルトの D2D キー：5572404C696E6B4C6F52613230313823）

3. ステータスのいずれかを有効にし、2バイトの16進数形式のMilesight D2Dコマンドを設定してください。このボタンを押すと、WS50Xは対応するD2Dエージェントデバイスに制御コマンドを送信します。また、このボタンで照明の制御も同時に行うことができます。

注：

1. 「**Button Status**」が有効になっている場合、D2D制御コマンドパケットにはボタンの状態情報が含まれます。これは通常、デュアル制御アプリケーションで使用されます。
2. **LoRa Uplink**が有効になっている場合、Milesight D2Dコマンドパケットの後に、対応するアラーム状態を含むLoRaWAN®アップリンクパケットがゲートウェイに送信されます。そうでない場合、パケットはLoRaWAN®ゲートウェイに送信されません。
3. D2Dパケットの送信が完了する前にボタンが押されてしまうため、競合やボタンの固着などの不具合が生じる恐れがありますので、ボタンを頻繁に押さないでください。

例：ボタン1を押すと、デバイスはL1をオンにし、Milesight D2Dエージェントデバイスにコマンド「1234」を送信します。

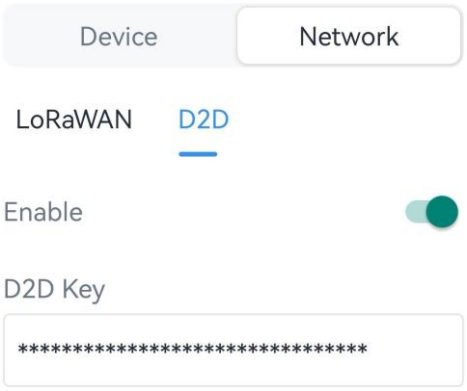


Milesight D2D Agent

D2D エージェント設定が有効になっている場合、本デバイスは Milesight D2D エージェントデバイスとして機能し、Milesight D2D コントローラデバイスからのコマンドを受信することができます。

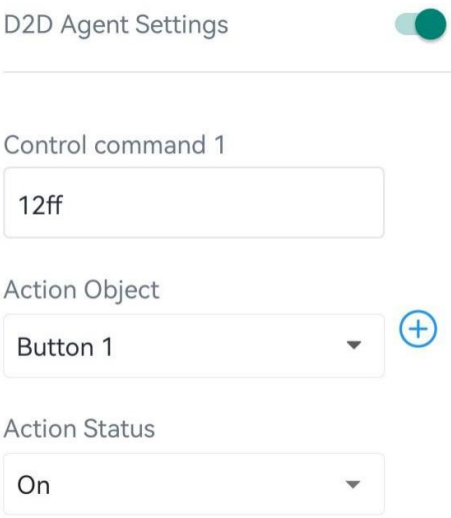
1. LoRaWAN® 設定の RX2 データレートおよび RX2 周波数が、D2D コントローラデバイスと同じであることを確認してください。

2. D2D コントローラデバイスの設定と同じ一意の D2D キーを定義してください。（デフォルトの D2D キー：5572404C696E6B4C6F52613230313823）



3. 「**D2D Agent Settings**」を有効にし、2バイトの16進数制御コマンド（0x0000～0xffff）とコマンドの動作を定義してください。1台のデバイスで対応できる制御コマンドは最大16個です。

例：Milesight D2D コントローラデバイスからコマンド「12ff」を受信した際、ボタン 1 をオンにします。

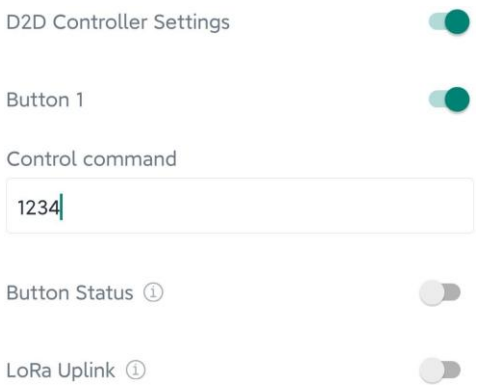


デュアル制御スイッチの例

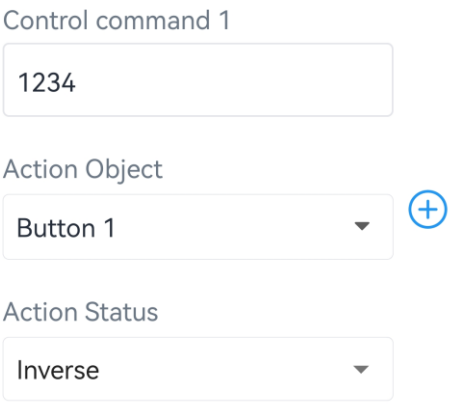
WS50xは、Milesight D2D機能により、1つの端末を制御するための2つ以上のスイッチに対応しています。ここでは、2つのスイッチの設定例を説明します。



1. 両デバイスのRX2データレート、RX2周波数、およびD2Dキーが同じであることを確認してください。
2. スイッチ 1 で D2D コントローラ設定を有効にし、1 つのボタンを選択して制御コマンドを設定します。



3. スイッチ2でD2Dエージェント設定を有効にし、スイッチ1と同じコマンドを設定した後、動作状態を「**Inverse**」に設定してください。



Maintenance

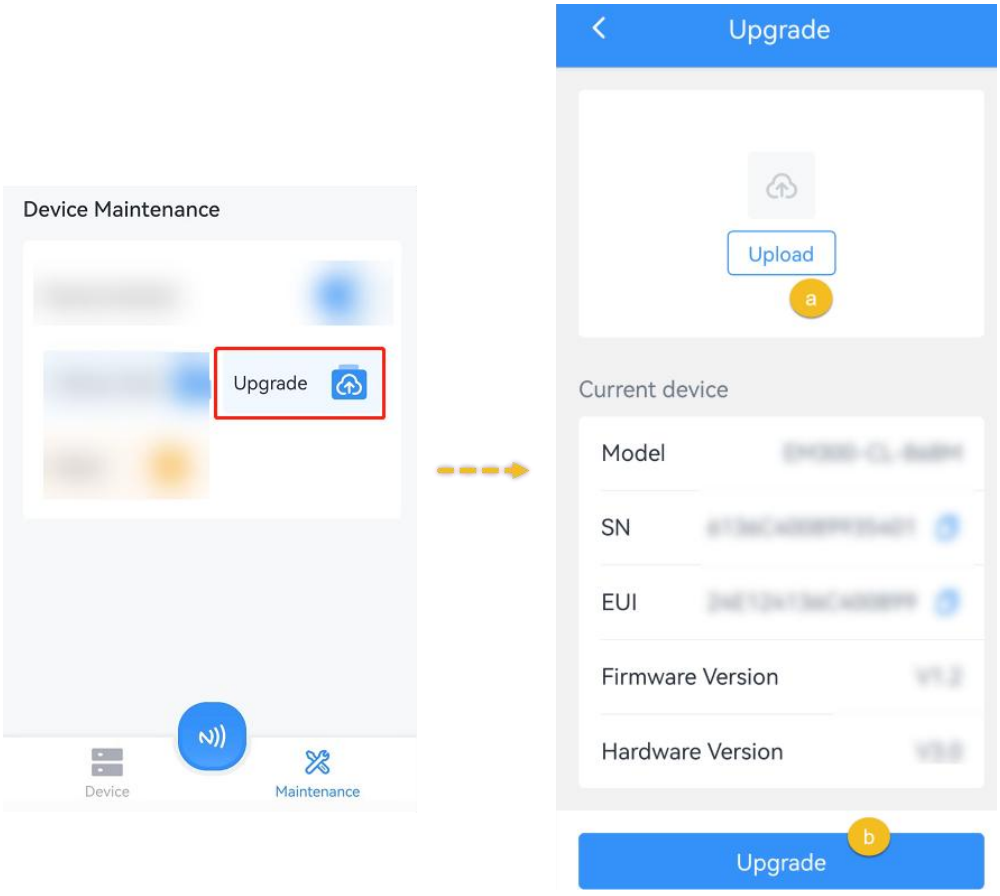
Upgrade

この章では、ToolBox アプリを使用してデバイスをアップグレードする手順について説明します。

1. Milesight の公式ウェブサイトから、スマートフォンにファームウェアをダウンロードしてください。
2. ToolBox アプリで対象デバイスを読み込み、「**Upgrade**」をクリックしてファームウェアファイルをアップロードします。
3. 「**Upgrade**」をクリックして、デバイスをアップグレードしてください。

注：

- アップグレード中は、ToolBoxでの動作には対応していません。
- アップグレード機能に対応しているのは、Android版のToolBoxのみです。

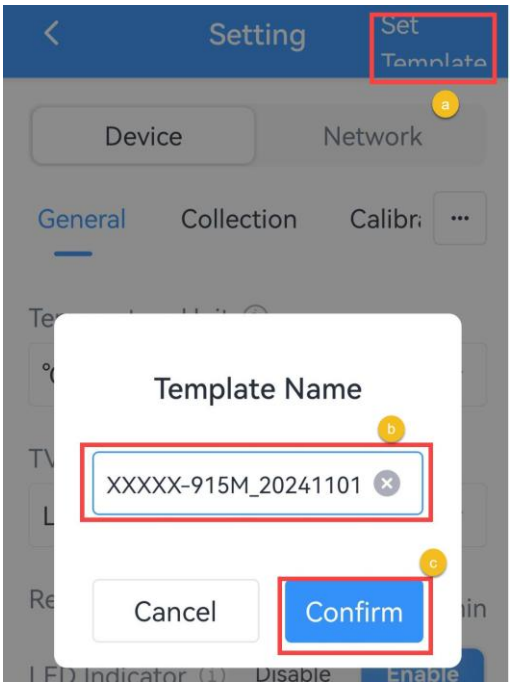


Backup and Restore

本デバイスは、デバイスの設定を簡単かつ迅速に一括で設定できるよう、設定のバックアップ機能を対応しています。バックアップと復元は、同じモデルおよび周波数帯のデバイス間でのみ可能です。

Backup and Restore

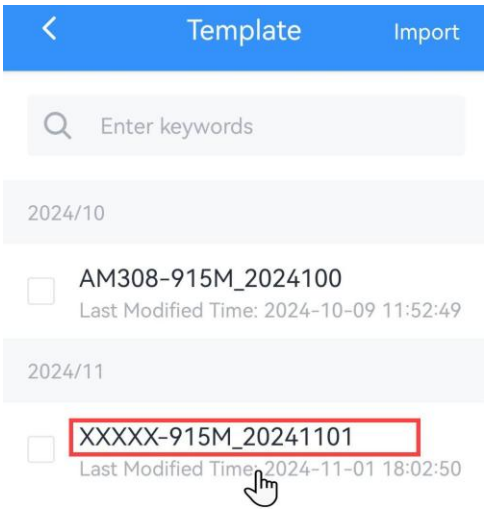
1. ToolBox アプリを起動し、スマートフォンの NFC エリアをデバイスに近づけて設定を読み取ります。
2. 必要に応じて設定を編集し、「**Set Template**」をクリックして、現在の設定をテンプレートとして ToolBox アプリに保存します。



3. **[Device] > [Template]** ページに移動します。

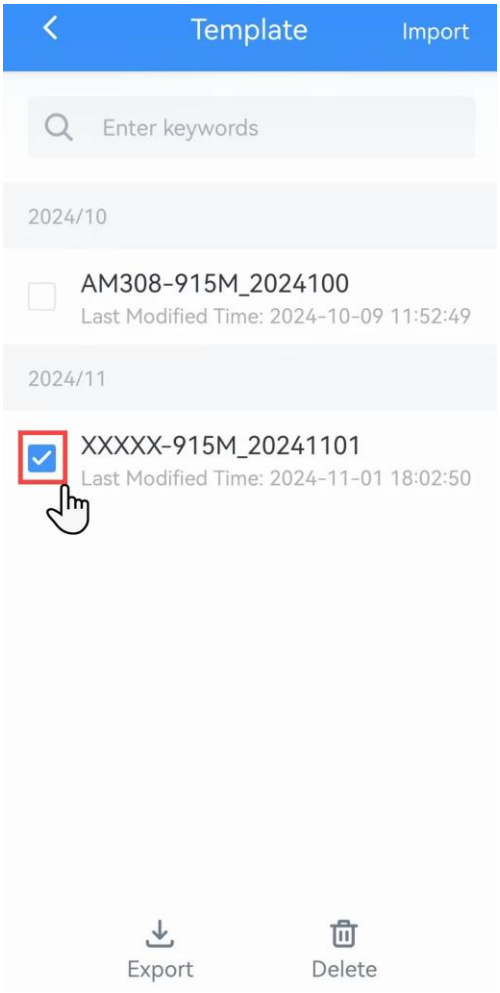


4. 対象のテンプレートを選択してクリックし、「**Write**」をクリックして、設定を対象のデバイスにインポートします。



Export and Delete Template

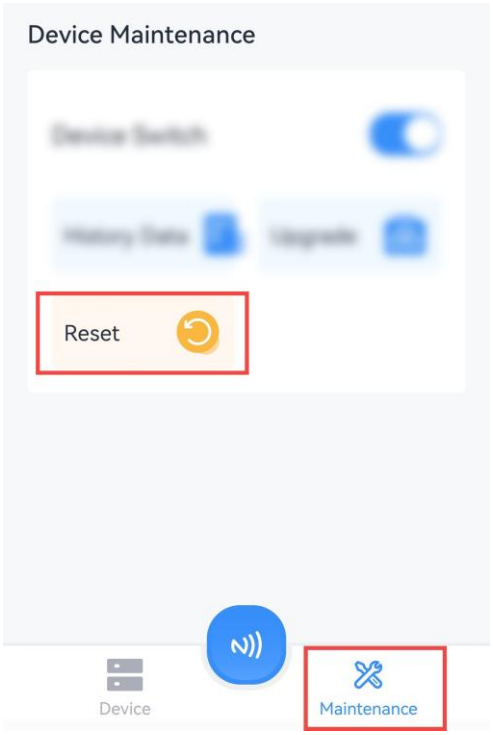
1. 対象のテンプレートのチェックボックスにチェックを入れます。
2. 「**Export**」をクリックすると、このテンプレートをJSON形式のファイルとしてエクスポートし、スマートフォンに保存できます。「**Delete**」をクリックすると、ToolBoxアプリからこのテンプレートを削除できます。



Reset to Factory Default

Via Hardware：LEDインジケーターが素早く点滅するまで、いずれかのボタンを10秒以上長押ししてください。

Via ToolBox App：**[Reset]**をクリックし、スマートフォンをデバイスに接続して、デバイスをリセットしてください。


Device Maintenance
Reset
Device
Maintenance

第7章 アップリンクとダウンリンク

概要

すべてのメッセージは以下の形式（HEX）に基づいており、データフィールドはリトルエンディアン形式に従う必要があります：

Channel1	Type1	Data1	Channel2	Type2	Data2	Channel3	...
1 Byte	1 Byte	N Bytes	1 Byte	1 Byte	N Bytes	1 Byte	...

デコーダの例については、https://github.com/Milesight-IoT/SensorDecoders にあるファイルをご参照ください。

アップリンクデータ

この章では、デバイスの報告データについて説明します。

基本情報

デバイスは、ネットワークに参加するたびに基本情報パケットを報告します。

Item	Channel	Type	Byte	Description
Power On	ff	0b	1	デバイスの電源が入っています
Protocol Version	ff	01	1	例：01=V1
Hardware Version	ff	09	2	例：03 10 = V3.1
Software Version	ff	0a	2	例：03 01 = V3.1
Serial Number	ff	16	8	16桁

例：

ff0bff ff0101 ff090100 ff0a0101 ff166771c21070911328		
Channel	**Type**	**Value**
ff	0b	ff
ff	01	01=V1
ff	09	ハードウェア：0200=V2.0
ff	0a	ソフトウェア：0101=V1.1

ff0bff ff0101 ff090100 ff0a0101 ff166771c21070911328		
Channel	**Type**	**Value**
ff	16	SN: 6771c21070911328

定期報告書

Item	Channel	Type	Byte	Description
Voltage	03	74	2	UINT16/10、単位：V
Active Power	04	80	4	UINT32、単位：W
Power Factor	05	81	1	UINT8、単位：%
Power Consumption	06	83	4	UINT32、単位：Wh
Total Current	07	c9	2	UINT16、単位：mA
Switch Status	08	29	1	Bit 0：L1 のステータス、0=Off、1=On Bit 1：L2 のステータス（WS502 のみ）、 0=Off、1=On Bit 2-7：000000

例：

報告間隔（デフォルトは20分）に従ってデータを報告します。

082903 058164 07c90200 0374b208 068301000000 048001000000		
Channel	**Type**	**Value**
08	29	03= 0000 0011 => スイッチ1と2をオンにします
05	81	力率：64=> 100%
07	c9	電流：02 00=>00 02=2mA
03	74	電圧：b2 08=>08 b2=2226 /10=222.6V
06	83	消費電力：01 00 00 00=>00 00 00 01=1 Wh=0.001 kWh

スイッチ変更レポート

スイッチの状態に変化があった場合、デバイスはスイッチ状態パケットを報告します。

Channel	Type	Byte	Description
08	29	1	Bit 0：L1 のステータス、0＝Off、1＝On Bit 1：L2 のステータス（WS502 のみ）、 0=Off、1=On Bit 2-3：予約済み Bit 4：L1 のステータス変更 Bit 5：L2 のステータス変更（WS502 のみ） Bit 6-7：予約済み

例：

082913		
Channel	**Type**	**Value**
08	29	13= 00010011 => L1がオンに変化し、L2はオンのまま となります

ダウンリンクコマンド

このデバイスは、設定および制御のためのダウンリンクコマンドに対応しています。ダウンリンクのアプリケーションポートは、デフォルトで85です。

スイッチのオン/オフ

Channel	Type	Byte	Description
08	-	2	**Byte 1**： • 10 - L1をオフにします • 11 - L1をオンにする • 20 - L2をオフにする • 22 - L2をオンにする • 30 - L1とL2をオフにする • 33 - L1とL2をオンにします **Byte 2**：ff

例：

1. L1をオフにします。

0810ff		
Channel	**Type**	**Value**
08	-	10ff = L1をオフにする

一般設定

Item	Channel	Type	Byte	Description
Reboot	ff	10	1	ff
Report Interval	ff	03	2	UINT16、単位：秒
Button On/Off Lock	ff	25	2	0080-disable：ボタンによるオン／オフを切り替える場合、 0000-enable：ボタンによるオン/オフ
Power Consumption	ff	26	1	00-disable、01-enable
Reset Power Consumption	ff	27	1	ff
Enquire Electrical Status	ff	28	1	ff
LED Indicator	ff	2f	1	00-disable 01-enable（ボタンがオフのときにインジケータが点灯）02-enable（ボタンがオンのときにインジケータが点灯）
Button Reset Lock	ff	5e	1	00- 有効にすると、ボタンでリセットできます 01- 無効にすると、ボタンによるリセットが行われます

例：

1. デバイスを再起動してください。

ff10ff

2. 報告間隔を20分に設定します。

ff03b004		
Channel	**Type**	**Value**
ff	03	b004=>04b0=1200秒=20分

3. ボタンのインジケーターを無効にします。

ff2f00		
Channel	**Type**	**Value**
ff	2f	00=Disable

4. 電力消費量の収集およびアップロードを無効にします。

ff2600		
Channel	**Type**	**Value**
ff	26	00=Disable

タスク設定

Item	Channel	Type	Byte	Description
Add Delay Task	ff	22	4	**Byte 1**： 00 **Byte 2-3**：遅延時間、単位：s **Byte 4**： • 10 - L1をオフにします • 11 - L1をオンにする • 20 - L2をオフにする • 22 - L2をオンにする • 30 - L1とL2をオフにする • 33 - L1とL2をオンにします **注：** 本デバイスは、1つのタスクのみの追加に対応しています。後に入力されたコマンドは、前のコマンドを上書きします。

Item	Channel	Type	Byte	Description
Delete Delay Task	ff	23	2	00ff

例：

遅延タスクを追加します：1分後にL1をオンにします。

0f22 003c0011		
Channel	**Type**	**Value**
ff	22	Byte 1：00 Byte 2-3：3c 00 => 00 3c = 60 秒 = 1 分 Byte 4：11 => L1 をオンにする

第8章 サービス

Milesightは、お客様に迅速かつ包括的なテクニカルサポートサービスを提供しております。エンドユーザーの皆様は、お近くの販売代理店にご連絡いただければ、テクニカルサポートをご利用いただけます。ディストリビューターおよびリセラーの皆様は、Milesightに直接ご連絡いただければ、テクニカルサポートをご利用いただけます。

テクニカルサポート用メールアドレス：

iot.support@milesight.com オンラインサポートポータル：

https://support.milesight-iot.com

リソースダウンロードセンター：https://www.milesight.com/iot/resources/download-center/

Milesight CHINA

TEL：+86-592-5085280

FAX：+86-592-5023065

Add: Building C09, Software Park Phase III, Xiamen 361024, Fujian, China

ウェーブクレスト株式会社
https://www.wavecrestkk.co.jp/ms/